揺らぐ境界

国境という「隔たり」を二枚のガラスの集合体によって形象化する。
両国の境界を障壁によって隔てるのではなく、小さな結晶を数珠繋ぎするようにガラスを建てることで
国境線上に両国の風景が乱反射と同時に重なり合うように映し出される。
そして境界自体が刻々と「解離」と「統合」を繰り返し、人々は両国のどちらにも属さない境界という現象のみと対峙する。

割れない限り半永久的に存在し続けるというガラスの儚くも強固な性質が、国境という物理的な「隔たり」を抽象化すると共に、そこに在り続けることの意味や歴史・記憶を現象化させる。

□ context

世界規模でグローバル化が進展する一方で、依然として国境管理が障壁や有刺鉄線によって厳重である地域は少なくない。それらの設置理由は紛争や戦争、経済格差など様々であるが、国境線の社会的透過性は、その物理的強度により規定される。

出典："More neighbours make more fences," The Economist, 15 September 2015.

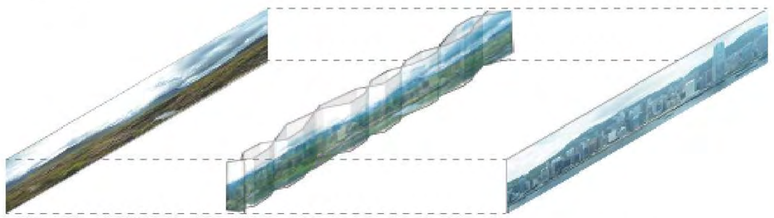
□ diagram

Ⅰ. 国境線は障壁などにより隔てられ、物理的及び社会的に閉鎖されている。

Ⅱ. 国境線の隔たりをガラスに置換することで、視線の抜けによる社会的透過性を獲得する。

Ⅲ. ガラスを有機的に入り組ませる。両国の風景は国境線を介し反射と屈折を繰り返し、新しい風景を織り成す。

□ diagram_glass



鏡面に両国の風景が乱反射するように映し出され、両国のどちらにも属さない境界という新たな風景が現象する。